みんなの広場

▶「街かどズームイン」では皆さんからの街角情報を募集中▶はがきで「うちの近所でこんなことやります」といった情報をお寄せください（電話不可）▶採用の場合は事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品進呈▶次回のテーマは「言うことなし」▶思わずガッツポーズしてしまう結末、大好物を口にした瞬間▶満足いくひとときのお話をお待ちしています▶締め切りは４月16日(月)必着▶いずれも住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１－１－１所沢市役所広報広聴課「みんなの広場」係

ご覧ください

テレビ埼玉

●所沢リポート

4月13日(金)／①午後5時30分～40分②午後10時15分～25分放映

『市長施政方針』

シティケーブルネット

●広報ところざわ テレビ情報館

4月19日(木)／①午後1時55分～2時②午後9時55分～10時放映

広報テレビ番組

リサイクルふれあい館 不用品ガイド

●譲ります ▽シューズボックス▽3ドア冷蔵庫▽冷蔵庫（85リットル）▽ガラステーブル（小）▽学習机（いす付）▽押し入れだんす▽整理だんす▽食器棚▽ライティングデスク▽座いす（肘掛け付・4脚）

●求めます ▽2段ベッド（大人も使用可）▽テレビ▽電子ピアノ（キーボードタイプ）▽石臼

受付方法 電話による先着順で紹介します。4月5日(木)から受け付けます。利用者は、所沢市民に限ります。

休館日 月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ リサイクルふれあい館（☎944－0008）

▲雨上がりに咲く福寿草。小さな花のひとつひとつが春の訪れを告げています。
３月上旬／三ヶ島・砂川遺跡周辺

街かどズームイン

▲演劇の世界での経験を通して感じた人間関係などを、渡辺えり子さんに話していただきました。生涯学習をすすめる市民のつどい。
３月３日(土)／ミューズ・マーキーホール

▲保育や清掃活動等を通して社会の一員としての役割を学びました。安松中学校卒業ボランティア活動。
３月13日(火)／松井保育園ほか

▲校庭内の修繕にともない、第５回卒業生が24年ぶりにタイムカプセルを出土（？）。「懐かしいなあ。」
３月17日(土)／伸栄小学校

誰でもエッセイ

テーマ"上下関係"

下上関係

上安松・三村　絹代

我が家の本棚に「和歌の作り方」という本を目ざとく見つけた彼女。孫とも思える年齢差の彼女が、一緒に勉強しませんかと声をかけてくれ月1回の教室に通うことになりました。

かれこれ3年になりますが、赤恥をかきっぱなしの私の隣に座って、いろいろとアドバイスしてくれます。一人だったら、とても通う気にはなりません。あまりにも言葉を知らなすぎますから…。才能ある彼女の歌の美しさ。

木犀の　木陰に佇む　我が肩に
来ぬ人待てば　香り移りて

ほれぼれとしてしまいます。

私は、彼女を先輩や先生のように位置付けています。教室の先生も、そんな私たちの間柄をとても興味を持って見ていたようです。

生涯学習の時代に、年の離れた彼女と一緒に勉強できることを、とても幸せに思います。

ディケアは心のふるさと

宮本町・竹内　和枝

私は、現在ディケアで社会復帰のための訓練を受けています。

患者同士、慰め励ましあう日々の中で、自分にとって親以上の存在の先生から精神的なケアを受けています。

先生との上下関係は信頼で結ばれた精神的な絆です。

発病前にいた職場では、監督の下で誠実に任務を果たし、監督は下で働く私たちのことをいつも考えていてくれたように思います。

現在、心のひだの奥までケアしていただける先生への親和力は、自分にとって何物にも替えがたい力です。

集団生活の中で、先生や仲間に対して失礼のないよう、嘘のないように、楽しい上下関係を守って一歩ずつ成長できるよう頑張りたいと思っています。

守ろう順番・抜かすな先輩

久米・立山　礼子

上司も部下も十人十色、良いも悪いも相性次第：は、8年半のOL時代の実感です。私の場合は、女性の先輩に恵まれていて、よく面倒を見てもらいました。

仕事中はこわくてもきけなかったけど、仕事が終われば気さくで優しくて面白い人ばかり。

「結婚退職は祝、『守ろう順番・抜かすな先輩』がルールだからね」とちゃめっ気たっぷり。

厳しくても筋が一本通っているので頼りがいがありました。

先輩たちが去ったあと、背のびして後輩の前で先輩風を吹かせてみても、元来のそそっかしさは隠せませんでした。

男女を問わず、職場に尊敬できる人がいるということは大切だと思います。

お札の世界も…

若狭・井上　美恵子

先日、テレビを見ていたら夏目漱石のお孫さんが出演していた。

漱石と言えば小説家であるが、最近では千円札の顔である。

ふと思った。一万円札が福沢諭吉、五千円札が新渡戸稲造だが、なぜその金額の紙幣に割り当てられたのだろうか？

世の中には、同じ様なことを考える人がいるものだ。たまたま、あるエッセイを読んでいてその答えが見つかった。

年齢の順が、金額の順になったそうだ。ちなみに福沢諭吉は1834年、新渡戸稲造は1862年、夏目漱石が1867年に生まれている。紙幣の世界にも、上下関係があるとは意外だった。

今年は、福沢諭吉がどくなってちょうど100年になる。あの世の諭吉さんは、こんな上下関係をどう思っているのでしょうか。

しつけのおかげ

三ヶ島・瀧上　英子

私が女学校に入学したときのことです。

家が交通不便なところのため寄宿舎に入り、そこで社会の上下関係の厳しさを知りました。それは上級生に対する言葉遣いでした。日常語にもすべて敬語を使うことが、その寄宿舎の伝統だったそうです。

各学年2～3人ずつが1室で、最上級生のひとりが室長さんでした。4、5歳しか年上でない室長さんには、先生と同じくらいの威厳を感じましたが、言葉遣い以外ではやさしく面倒を見ていただきました。

就職したときに上司に対する敬語に困ることがなかったのは、上級生のしつけのおかげと有り難く思ったものでした。

三枝之禮（さえだのれい）

松が丘・柴垣　進

これは、鳩が木の枝に止まるとき、親より三本下の枝に止まって親に対する礼（禮）儀を守るという古事からきた言葉です。

老若の区別がはっきりと示されており、自然界にもこのような秩序があるのかと思う次第です。

江戸時代の国学者・渡邊華山の亡き母は雷が嫌いだった。あるとき、雷鳴とともに豪雨があり、華山は墓へと走った。

彼はおのれの合羽を脱ぎ、墓石に掛けて雷鳴がやむのをしばし待ったという。

現代は、実力優先の新しい人間関係をよしとする風潮があるが、いつの時代も人を思う優しい心が大切です。

謙虚に襟を正して、長老に教えを乞う。老い人を尊敬して、過ぎし時代の尊い経験を見聞きし身に付けてこそ、技術や社会の進歩が成り立っていくのではないかと思えてならない。

夢は迷コーチ?

上山口・大村　美恵子

Jリーグができる、ちょっと前のことです。小学2年生の息子が、育成会のサッカーチームに入りました。会長さんは言います。

「ヨコのつながりも大事だけど、タテの関係で子どもたちは人の道を学びます」

息子が6年生になったとき、私はこんな光景を目にしました。近所の年下の男の子たちを集めてマラソンさせているのです。

「ファイト、ファイト！」みんな元気に走っていきます。その後ろから息子が自転車でついて行きます。「自分も走らんかい」私は心の中で言っていました。

「みんなをいい選手にしたい。俺は、コーチ向きさ」

彼は、笑みを浮かべて、私の前を通り過ぎていきました。

十字架とピラミッド

下安松・大橋　英敏

私が中間管理職になったときに言われました。

「管理職は、十字架にかけられているようなものだ。上からは抑えられ、下からは突き上げられ、左右は同僚でも競争相手だ。その真ん中にぶら下げられて努力しているのが管理職だ。」

油断もスキもあったものではないなと思いました。

定年後、十字架から解放されて多くの趣味人と交際するようになると、肩書きのとれた人ばかりで全くわけへだてがない。

ピラミッド型の中に作られた上下の関係とは一体何なんだろうと、心の持ちようにまで思い至って考えてしまいました。

次回のテーマは「言うことなし」です

Tokorozawaものしりウォーキング ⑫ さつま芋の作り始め

柳瀬地区・南永井の吉田さんの家には、「史蹟南永井さつまいも始作地之碑」と記された石碑があります。旧南永井村は、川越藩が開いた新田村で、後に幕府領となりました。「新田」といっても、田はなく畑地・芝地・林等でした。吉田さんの先祖・市郎左衛門は、上州からこの新田村に移ってきて代々名主を勤めることになりました。

さつまいも始作地之碑

市郎左衛門から４代目にあたる弥右衛門が寛保３年(1743)から書き始めた記録は、「弥右衛門覚書」とよばれ、市の文化財に指定されています。この覚書には、柳瀬地区でさつま芋が栽培され始めた経緯が判明する貴重な記述がのこされています。

寛延４年（1751）２月、弥右衛門は、息子・弥左衛門を上総国志井津村(現・千葉県市原市)につかわしました。目的は、さつま芋の買い付けです。弥左衛門が村に帰ってきたのは９日後のことでした。以後、さつま芋の栽培は、周辺の村々にも伝わっていきます。芋は、新河岸川によって江戸へ運ばれました。集散地である城下町・川越の名をとって「川越芋」と呼ばれるようになったのです。

よく知られているように、薩摩では、早くからさつま芋の栽培が行われていました。18世紀前半、凶作時に備えるための「救荒作物」として青木昆陽(1698～1769)が奨励してから、関東全域にも広まっていきました。食べるということに対する日常的な不安が背景にあったため、比較的栽培のしやすいさつま芋が、関東地方にも急速に広まったものと思われます。

文書によると、江戸時代の南永井村は、地味が悪く困窮していたために、畑にならない荒れた土地は芝や林に仕立てていました。こうした例は、山がちの村によく見られました。比企郡のある村では、村人全員で植林し、山からの様々な収益によって不作の年をしのぎました。

南永井の「さつまいも始作地」は、18世紀半ばにおける関東地方のさつま芋普及の一例として、たいへん興味深いところなのです。

さつま芋収穫のようす

はつらつところ野老っ子

後藤　太佑（たいすけ）さん
（並木在住）

たまには絵手紙を書いてみては？

今回紹介する後藤太佑君は、３月に「第33回全国手紙作文コンクール」の絵手紙部門で、最高位の郵政大臣賞を受賞しました。このコンクールには、全国から13万点（そのうち絵手紙部門は６万点以上）を超える応募がありました。厳正な審査の結果、後藤君の絵手紙が最優秀作品12点のひとつに選ばれました。

「夏休みの自由課題の宿題として気軽に描いたもので、提出したことさえ忘れていました」とのこと。「学校の朝会でいきなり名前を呼ばれたときには、見当もつかずびっくりしました。」

絵手紙の題材は剣道の絵柄。毎夏、夏休みを母親の郷里である熊本で過ごすそうです。そのとき、近所にある剣道場へ練習がてら通っていたとのことでした。「その道場の仲間たちに暑中見舞いを送るつもりで描きました。構想がパッと浮かんだので、あとは筆まかせ、一気に描きあげました。」

小さいころから動物とか小鳥など動きのあるものを描くことが好きだったそうですが、「手紙を書くことは年賀状以外ありません。その年賀状さえデザインや文章はパソコンで作るので、自筆ではほとんどないと思います」とのこと。

コンクール入賞作

今、若年層を中心に活字離れが進んでいます。文章表現によるコミュニケーションが極めて少なくなっているのではとたずねたところ、「でも、けっこう文章を書いているんですよ。パソコンメールを使って、友だちとやりとりしていますから」と答えてくれました。こうしたところにも時代の流れが感じられます。

実は、後藤君が通学している市立中央中学校自体もこのコンクールで「学校賞」を受賞しています。さらに、後藤君以外にも５人の生徒さんが入賞を果たしたそうです。

「勉強と部活動（剣道部）を両立させることが目標です」とはにかみながら語ってくれた後藤君には、入賞作品の絵柄がピッタリでした。